

2019年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

「高校生版DMO」の活動を核とした地域観光ビジネス教育プログラムの開発

2. 研究の目的

本校が所在する千葉県長生郡一宮町は、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技会場地（サーフィン）となった。町では、この世界的イベントを地域観光活性化の起爆剤としてとらえ、町の振興につなげていこうとする機運が高まっている。また、次期学習指導要領の教科「商業」では科目「観光ビジネス」が新設となり、「商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を育成する」とされている。

そこで、本研究では、主として教科「商業」の学びを通し、地域観光活性化のために活躍することのできる専門的職業人（以下、観光人財）を育成するために、どのような教育プログラムが有効か、という点について、一宮町を中心とした外房地域の観光活性化に向けた取組を通じて明らかにする。

具体的には、『DMO』、『観光コンテンツ開発』、『国際交流』、『観光マーケティング塾』、『観光・地域ビジネス』の5つの分野に重点を置き、生徒が、地域との連携を軸にしながら外房地域の多様な関係者と協働して、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う組織（＝高校生版DMO）を主体的に運営する過程をとおして、専門的職業人を育成することを目指している。

※DMO：Destination Management Organization の略

行政や地域との連携を軸にしながら外房地域の多様な関係者を巻き込み、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う組織

3. 実施期間

契約日から2020年3月13日まで

4. 当該年度における実施計画

(1) 育成する人材像

本研究を通じて、地域観光に興味をもち、ビジネスとして捉え、将来、社会的・職業的に自立し、地域観光活性化を担い、一宮を中心とした地域のさらなる発展や未来創造に貢献できる人材の育成を目指す。

(2) 求められる資質・能力

地域観光ビジネスの基礎的知識や、英語を通じたコミュニケーション力、情報活用能力など、

ビジネスに関する専門的知識・技術を習得するとともに、地域観光の実状を理解することができる力を育成する。

具体的には、教科「商業」の各科目の学びを生かした、観光ビジネスについての実践力を伴った体系的・系統的な知識及び技術を身に付ける。また、地域観光に関する課題を発見・設定し、専門的職業人としての倫理観をもって合理的・創造的に課題を解決する力を育成する。さらに、長きにわたって地域社会を支える人財として必要な人間性、及び、より良い地域社会の実現に向けて主体的に学び、協働的に物事に取り組むことができる力の育成を目指す。

今年度は、高校生版DMOの実践に必要な知識や技術の習得を目指し、観光に関する専門的知識を学びながら地域の現状理解と地域観光活性化に向けた力を身に付け、地域に出て活動する学習プログラムの実施と検証を行う。また、地域との連携を軸に、次年度に実施する学習プログラムの研究を行う。

(3) 教育プログラムの開発

ア. 地域の課題発見力・分析力・表現力の育成

【観光・地域ビジネス分野の取組】

「地域観光ビジネス」～みんなの想い 「一宮町ミュージアム」

(ア) 資質・能力の概要

- ・観光による地域の活性化について、企業における事例と関連付けて理解できる。
- ・観光による地域の活性化に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて観光による地域の活性化に関する計画を立案できる。
- ・観光による地域活性化について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。

(イ) 実施時期及び期間

【現代社会】2学期 事前事後学習各1時間、調べ学習3時間、発表1時間（計6時間）

【ビジネス基礎】1学期 調査・課題検討2時間

2学期 事前事後学習各1時間、文化祭での体験学習6時間（計9時間）

【地域観光Ⅰ】通年 地域観光Ⅰの選択者 3単位中の1単位分を社会科と商業科のチームティーチングで授業を行う。

(ウ) 教育課程上の位置付け

1年生 公民科「現代社会」 商業科「ビジネス基礎」 163名

2年生 「地域観光Ⅰ」18名

(エ) 具体的教育プログラム

- ・私たちの学校がある一宮町の伝統文化や魅力について、風土愛、郷土愛を深める。

- ・一宮町が取り組もうとしている観光分野での町おこしについて、理解を深める。
- ・観光地として、国内、海外から多くの観光客が来ることを想定し、それに対応できるようなコミュニケーション能力の向上を図る。
- ・一宮町の人口減、経済衰退といった課題を理解し、高校生の立場から外国人を含めた観光客誘致のビジネスモデルを考える力の向上を図る。
- ・地域の地場産業から観光の魅力を探り、地域活性化へ繋げることを考える力の向上を図る。
- ・今後実施する観光アプリの開発やイベントプランの作成に生かすための IT 技術に関する基礎的な力を身に付ける。

【現代社会】

グループごとに様々な一宮町の伝統文化・歴史を調べ、15分程度のミニ授業案を作成する。最後は授業案に基づき、実際に授業を展開（発表）させる。

- ・学習の初めに、意識づけのためのアンケート調査を実施する。
- ・一宮町の歴史・史跡などについて概略を学ぶ。
- ・各班で発表に向け1つの観光資源を深く掘り下げる調べ学習を行い、それが周囲へ伝わるよう工夫を行う。
- ・一宮町の観光資源について調べることで一宮町の伝統文化理解及び新たな観光対象の発掘につなげる。
- ・各班の発表を通して一宮町の特徴・魅力について再確認する。
- ・事後学習としてアンケート調査を実施し、事前事後の比較を行う。

【ビジネス基礎】

・「社会の変化とビジネスの発展」に関する学習において、現在の一宮町のもっている特徴・魅力は何かを問いかける。

・上記を踏まえて、一宮町及び千葉県の魅力有る地場産品を見つけ、テーマ・ストーリーを設定し、利益計画をたて、販売促進について調査研究することでビジネスについての理解を深める。

- ・グループごとに調査・研究した内容を活かし、文化祭で「一商デパート」として販売体験をさせ、ビジネス力のスキルアップを図る。
- ・一宮町役場に講演を依頼し、地域の特性について講演を開催する。

【地域観光Ⅰ】

・一宮町の概要や社会的な面からとらえる地域の特徴、歴史的な事象についての理解を深め、町の特徴の把握やそれを生かした観光資源の発掘につなげる。

・まだ広く知られていない観光資源を取り上げ、どのようにして観光対象にしていくのかを考える過程を通して、一宮町の観光のあり方を考える。

・イベント出展時などに、一宮町の魅力を伝えるブースを生徒のアイディアをもとに作成し、アンケート調査を実施することで、魅力の伝え方やまとめ方を学ぶ。

(オ) 学習評価の方法

- ・パフォーマンス課題によって評価を行う。
- ・意識調査（アンケート調査）の前後でどのくらい意識が変わったかを測定する。
- ・発表に関しては、資料の分かりやすさや完成度を総合的に評価する。
- ・発表を行う際にグループ内の貢献度を評価し、積極性や責任感などを観点別に評価する。
- ・公民的な事項については、生徒が作成したプリントを元に小テストで評価を行う。
- ・「ビジネス基礎」で学んだ基礎知識については、定期考査及び小テストで評価を行う。
- ・「地域観光Ⅰ」で学んだ基礎知識については、定期考査及び小テストで評価を行う。

イ. 英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度と能力の育成

【国際交流分野の取組】

外国人観光客の困りごとを解決し、支援できるコミュニケーション能力の育成

(ア) 資質・能力の概要

- ・観光ビジネスにおけるホスピタリティの重要性を理解し、具体的な言語の使用場面を想定した言語活動に取り組む。
- ・情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる。
- ・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

(イ) 実施時期及び期間

1年 「コミュニケーション英語Ⅰ」

1学期3時間 2学期3時間 3学期2時間 (8時間)

2年 「コミュニケーション英語Ⅱ」

1学期2時間 2学期2時間 3学期1時間 (5時間)

「地域観光Ⅰ」

2学期6時間 (6時間)

(ウ) 教育課程上の位置付け

1年 外国語科「コミュニケーション英語Ⅰ」 163名全員

2年 外国語科「コミュニケーション英語Ⅱ」 162名全員 「地域観光Ⅰ」 18名

(エ) 具体的教育プログラム

国際的イベントや観光で一宮町を訪れる外国人観光客について、その状況やニーズを理解し英語を用いて適切な対応や支援を行うコミュニケーション能力を養う。

1年生全員 「コミュニケーション英語Ⅰ」

- ・国際交流に関する生徒自身の体験をグループ発表し、外国人とコミュニケーションを図る際の問題についてクラスで話し合い、各自が取り組むことができるものや、想定される困

りごとの解決策をまとめる。

[方法] KJ 法

- ・教科書のトピックを使って外国人とのコミュニケーションに必要な活動を行う。

[方法] ペアによるロールプレイング

- ・国際人度テスト

2年生全員 「コミュニケーション英語Ⅱ」

・教科書の各単元的话题を生かしながら外国人への具体的な活動を想定し実践につながる取り組みを行う。

・国際交流ユニットが目標とする言語活動を系統的に組み込み、教科書の各単元的话题を生かしながら外国人への対応を考える機会を持つこととする。具体的な活動を想定し実践につながる取り組みを行う。

2年生 選択者 「地域観光Ⅰ」

・地域を訪れる外国人観光客のためのガイドを務められるよう、観光スポットについて収集した情報をふまえながら英語での適切な表現や対応の仕方を学び、他のユニットと協働しながら地域での実践力を身に付ける。

[方法] ペアによるロールプレイングや Show & Tell

- ・英語セミナー

(オ) 学習評価の方法

- ・英検 IBA レベルのパフォーマンステストを複数回行う。

ウ. 地域観光マーケティング・マネジメント力の育成

【マネジメント分野の取組】

一宮町の観光資源をリンクする『一商版DMOプロジェクト』

(ア) 資質・能力の概要

- ・観光による地域の活性化について企業における事例と関連付けて理解するとともに、観光振興とまちづくりとの関係など、観光ビジネスの展開と効果に関する知識を身に付ける。
- ・観光による地域の活性化に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて観光による地域の活性化に関する計画を立案できる。
- ・観光資源の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(イ) 実施時期及び期間

1年 7月 11月 12月の6時間

2年 4月～3月 週3時間 【選択 地域観光Ⅰ】

3年 4月～1月 週2時間 【課題研究 ビジネス研究班】

(ウ) 教育課程上の位置付け

- 1年「ビジネス基礎」 163名全員に実施 7月については学年行事
- 2年選択「地域観光Ⅰ」
- 3年「課題研究」ビジネス研究選択者

(エ) 具体的教育プログラム

1年 全体

各地で先行する地域観光ビジネスの取組を参考にし、観光ビジネスについて興味・関心をもたせ、今後実施する「高校生版DMO」について講話により理解を深める。

- ・学習のはじめに、生徒の意識について事前のアンケート調査を実施する。
- ・「モノ消費からコト消費」「インバウンド」など近年のビジネス環境の変化について学ぶ。
- ・一宮町について調査・研究に取り組み、一宮町役場職員より講話を聞く。
- ・地域観光ビジネスに取り組んでいる地域の活動事例について調査・研究する。
- ・DMOについての講演会を実施し、DMOについてまとめさせる。
- ・3年生「課題研究」ビジネス研究班およびビジネス研究部による取組発表を聞く。
- ・事後のアンケート調査を行う。

2年 選択「地域観光Ⅰ」

「観光の定義」と、「観光を学ぶ意義」、「観光がもたらす効果や影響」を外部講師による講義を交えながら理解する。その知識をもとに、フィールドワーク等とおして地域の魅力を発見し、効果的に発信する能力を身につける。

- ・外部講師に来校していただき、一宮町の「海」や「歴史・文化」に関する魅力を理解し、一宮町の来訪者に町内の魅力を伝える力を養う。
- ・7～8月に開設予定の「いちのみやマリンステーション」で来訪者に町内の魅力を伝えるための掲示物や「マリンステーション」のWebページ内での紹介ページを作成する。
- ・「マリンステーション」で来訪者に体験していただくワークショップの開発をし、実践する。
- ・翌年4月に開催予定の「さすが市」で来訪者に魅力を伝えるための掲示物やワークショップの企画をする。
- ・一宮町の魅力を動画配信する技術を養う。
- ・翌年度に取り組むDMOとして役割を理解し、計画・立案する。

3年 「課題研究」

「東京五輪サーフィン種目」と「社会的問題」をリンクさせ、これまで学習した商業の学びを生かし、高校生の力で変化を生みだせる活動に取り組み、商業の学びを深化させる。

- ・一宮町の課題を調査し、解決すべき課題を決定する。
- ・マイクロプラスチック問題について、地域で活動している方や有識者との意見交換を行い、実情を理解するとともに解決方法を検討する。
- ・課題解決に向けて、地域への啓発活動に取り組む。

- ・解決方法を実践し，科学的分析を行い，取り組みを評価する。

(オ) 学習評価の方法

1年 全体

- ・学習態度やレポートによって「知識・理解」や「関心・意欲・態度」など，観点別評価を行う。

2年 選択「地域観光Ⅰ」

- ・定期考査による評価。
- ・学習態度やレポートによって「知識・理解」や「関心・意欲・態度」など，観点別評価を行う。
- ・ルーブリックによる到達度評価。

3年 「課題研究」

- ・学習態度やレポートによって「知識・理解」や「関心・意欲・態度」など，観点別評価を行う。
- ・ルーブリックによる到達度評価

エ. IT の力で地域を活性化させる発想力と主体性の育成

【観光コンテンツ分野の取組】

一商版ハッカソン 一宮町の魅力を発信する観光コンテンツの開発

(ア) 資質・能力の概要

- ・観光による地域活性化に有用なプログラムを開発するための基礎的な情報処理能力を身に付ける。
- ・観光による地域の活性化に関する課題を発見し，それを踏まえ，科学的な根拠に基づいて，観光による地域の活性化に関する計画を立案できる。
- ・観光コンテンツの作成を通して，観光ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む。

(イ) 実施時期及び期間

10月下旬～11月上旬の8時間

(ウ) 教育課程上の位置付け

教科「プログラミング」にて，情報処理科2年生普通コース約25名に実施

(エ) 具体的教育プログラム

- ・一宮町の観光の魅力を発信する観光コンテンツを作成することを通して，課題発見能力や

課題解決能力を育てる。

- ・ユーザーが使いやすいユーザーインターフェースの設計方法や画像、動画、音声などを扱うための技法を習得させる。
- ・観光コンテンツに必要な素材を集めるフィールドワークやインタビューを通して、コミュニケーション能力の向上や主体性・協調性を育む。

1年次の観光アプリアイデアコンテストの結果を受けて、一宮町の魅力として紹介する観光名所やイベント、歴史、店舗などについて紹介するマルチメディアコンテンツを作成する。作成するコンテンツは、写真、動画、音声などのデータをフィールドワークで収集し、観光アプリで紹介する一宮町の魅力に関するページを作成する。

- ・グループ編成をし、観光名所や地域の店、イベント、歴史など作成する観光コンテンツのテーマを決める。
- ・文字や画像、音声、動画など、コンテンツの構成要素やレイアウト、ユーザーインターフェース設計などに関する授業を行い、作成するコンテンツの案を考える。
- ・フィールドワークや関係者へのインタビューを通して、コンテンツ作成に必要な画像や動画、音声などの素材を収集する。(インタビューに伴うアポイントの取り方も指導する。)
- ・Android StudioでXMLファイルを作成し、観光コンテンツを作成する。
- ・全てのグループが作成した観光コンテンツを観光アプリのプロトタイプに組み込み、試作品を作る。(プロトタイプアプリは教員が用意する。)

(オ) 学習評価の方法

- ・情報を受け手に分かりやすく伝えることができるように情報デザインの知識・技術を活かしてコンテンツ案を作成できるか評価する。
- ・コンテンツ案の作成やフィールドワーク、インタビューなどをグループで協力して行い、主体的・協調的に学習活動に取り組んでいるか評価する。
- ・画像や動画、音声などのマルチメディアコンテンツを適切に扱い、XMLファイルを作成する技法を習得できているか評価する。

※ハッカソン……ソフトウェアのエンジニアリングを指す“ハック”(hack)とマラソン(marathon)を組み合わせた米IT業界発祥の造語。複数のプロジェクトチームが、マラソンのように、数時間から数日間の与えられた時間を徹してアイデアの考案やプログラミングに没頭し、成果を競い合う開発イベントのこと。

オ. 観光ビジネスに必要な企画力・創造力の育成

【観光マーケティング分野の取組】

「観光マーケティング塾（初級編）」開講 ～地域の企業人や大学関係者による講義～

(ア) 資質・能力の概要

- ・観光ビジネスにおけるマーケティングについて、企業における事例と関連付けて理解できる。
- ・観光ビジネスにおけるマーケティングに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、マーケティングに関する計画を立案できる。
- ・観光ビジネスにおけるマーケティングについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む。

(イ) 実施時期及び期間

7月～8月の長期休業中に実施（4日間程度）

(ウ) 教育課程上の位置付け

2年生 地域観光Ⅰ及びマーケティング選択者

(エ) 具体的教育プログラム

今年度のマーケティング関連講演を基礎として、新しい地域活性化ビジネスを考える上での専門的な知識や企画力を習得するとともに、具体的な戦略アイデアに向けての意識を高める。

1年生 全体

一宮町の地理的環境や特徴及び町の現状についての講演会を実施する。

- ・この講演会により、一宮町の課題等を発見することができ、今後の観光マーケティングに役立てる。

千葉県内で地域振興活動を行っている企業の方による講演会を実施する。

- ・この講演会により、マーケティングの大切さを学習させるとともに、次年度のマーケティング塾への興味関心を高める。

2年生 「地域観光Ⅰ」及び「マーケティング」選択者

1年次のマーケティングに関する講演会を基礎に、実際に地域の観光関連ビジネスを展開している企業人や専門的知識をもっている大学関係者による観光マーケティング塾を開講し、地域観光ビジネスについての理解を深める。

今年度は初級編として夏期休業中に集中して（3～4日間）講義を行う。

- ・学習の初めに、生徒に観光マーケティングについて、事前アンケート調査を行う。
- ・集中講義によって学習を進める。
- ・講義の振り返りとして、それぞれの感想や疑問点などをレポートとしてまとめる。

2年生 「地域観光Ⅰ」選択者

- ・デジタルマーケティングを活用したプロモーションの企画に取り組む。

(オ) 学習評価の方法

- ・意識調査（アンケート調査）の前後でどのくらい意識が変わったかを測定する。

- ・修了試験の実施により、生徒の知識・技術の理解・定着度合いを数値化する。その際、どの設問が、どの資質・能力に関するものなのかを明確にする。
- ・「観光マーケティング塾」の学びを通して、どのような資質・能力が向上したか、該当生徒へ意識調査を行う。
- ・ルーブリックによる到達度評価

(4) 次年度実施する教育プログラムの開発

ア. 学校設定科目「地域観光Ⅱ」についての研究

- ・高校生版DMOの活動開始に向け、各ユニットで実践してきた内容を効果的に融合させる。「地域観光Ⅱ」での取組みが中心になるため、地域との連携を軸に、ビジネスにつながる発信力や実践力を高める。

イ. 観光ビジネスに必要な企画力・創造力の育成についての研究

- ・「学校設定科目「地域観光Ⅱ」を履修している生徒を中心に「観光マーケティング塾標準編」を開講し、観光ビジネスの応用的内容を理解させる。

ウ. 英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度と能力の育成についての研究

- ・留学生と英語で交流し、新たな課題について話し合う。
- ・地域に提案した困りごとの解決策について、2年次に行うインターンシップを通して得られる情報を元に改善し、より具体的に外国人観光客の支援を行う。
- ・一宮町の国際的イベントに訪れる観光客を想定し、道案内や観光スポットの説明などをロールプレイングで行う。

(5) 研究成果の普及

研究成果については、報告書形式にまとめ、関係各所に配布する。またWebサイトを活用したり、町のイベント会場での発表や掲示物等を作成し、研究成果の周知に努める。さらに「SPH中間発表会」や校内プレゼンテーションにおいて報告し、共有を図る。その際には、教育関係者や企業などの外部連携機関にとどまらず、広く地域にも公開して、研究成果の普及を図る。

2. 実施体制

(1) 研究担当者

5つの研究分野である『DMO』、『観光コンテンツ開発』、『国際交流』、『観光マーケティング塾』、『地域観光ビジネス』について、ユニットを構築する。各ユニットは、具体的な取組を企画し、各教科、学年、分掌が支援を行う。今年度は、商業科目「ビジネス基礎」「情報処理」を中心に、英語科・地歴公民科の授業及び学年行事の中で研究を行う。

氏名	職名	役割分担・担当教科等
渡部 清	校長	統括

井上 修一	教頭	連絡調整
北根 克義	事務長	財務担当, 予算管理・経理事務
末永 敬一	教諭	商業科主任・ユニット統括・「地域観光Ⅰ」担当
丸島 卓也	教諭	情報処理科主任・「情報処理」「プログラミング」担当
鈴木 俊昭	教諭	教務主任・教育課程調整・数学科
田辺 和代	教諭	「コミュニケーション英語Ⅱ」「地域観光Ⅰ」担当
酒井 宣浩	教諭	「コミュニケーション英語Ⅰ」担当
半沢 祥光	教諭	「現代社会」「地域観光Ⅰ」担当
浅野 正史	教諭	観光・地域ビジネスユニット 「ビジネス基礎」担当
太田 義昭	教諭	マネジメントユニット
田中 衡	教諭	観光・地域ビジネスユニット 「ビジネス基礎」担当
石井 正	教諭	観光マーケティングユニット 「マーケティング」担当
江澤 武人	教諭	観光コンテンツユニット 「情報処理」担当
橋本 秀哉	教諭	観光マーケティングユニット 「情報処理」担当
太田 真純	教諭	観光・地域ビジネスユニット 「ビジネス基礎」担当
窪岡 慎一	教諭	観光マーケティングユニット
速水 圭太郎	教諭	観光・地域ビジネスユニット
田中 善洋	教諭	マネジメントユニット 「情報処理」「地域観光Ⅰ」担当
勝 和 大	教諭	観光・地域ビジネスユニット
橋本 翔平	教諭	観光コンテンツユニット 「プログラミング」担当
寺家 光希	教諭	観光・地域ビジネスユニット 「ビジネス基礎」担当
石井 浩子	実習助手	「情報処理」担当
高橋 憲仁	実習助手	「情報処理」担当
鈴木 朝枝	実習助手	「情報処理」担当

(2) 研究推進委員会

S P H運営指導委員会及び千葉県教育委員会の指導, 助言を受け, 企画立案や連携先機関との連絡調整を図りながら, ユニットごとの事業を展開する。

氏 名	職 名	役割・分野等
渡部 清	校長	統括
井上 修一	教頭	連絡調整
北根 克義	事務長	財務担当, 予算管理・経理事務

末永 敬一	教諭	企画立案統括,「観光マーケティング塾」運営担当
元吉 一仁	教諭	企画立案統括補佐
丸島 卓也	教諭	「ホームページ」「観光コンテンツ開発」運営担当
鈴木 俊昭	教諭	教育課程, 行事検討担当
田辺 和代	教諭	「国際交流」企画立案担当
酒井 宣浩	教諭	「国際交流」運営担当
半沢 祥光	教諭	「観光・地域ビジネス」企画立案担当
石井 正	教諭	「観光マーケティング塾」企画立案担当
田中 善洋	教諭	「マネジメント」企画立案担当
橋本 翔平	教諭	「観光コンテンツ開発」企画立案担当
田中 衡	教諭	「観光・地域ビジネス」企画立案担当
高橋 憲仁	実習助手	取組の記録及び広報担当
鈴木 朝枝	実習助手	取組の記録及び広報担当

(3) 運営指導委員会

本校のSPH事業の推進において、第三者の立場として、学校教育に関する有識者、企業等の専門職従事者、行政機関の職員等を委員として依頼し、指導助言をしていただく。また、来年度以降のプログラム策定についても助言をいただく。

氏 名	所属・職名	役割・専門分野等
山本 恭裕	千葉商科大学商経学部教授	研究全体の評価 指導・助言（マーケティング）
于 航 (YU HANG)	城西国際大学観光学部准教授	研究全体の評価 指導・助言（インバウンド観光）
瀬田 直也	千葉商工会議所 企画経営部 企画広報課長	研究全体の評価 指導・助言（地域経済振興）
宇佐美 信幸	合同会社 いちのみや観光局	研究全体の評価 指導・助言（DMOの運営）
岩本 慎一	千葉県商工労働部観光企画課 観光企画室 観光推進員	研究全体の評価 指導・助言（県観光行政）
川島 敏文	一宮町 副町長	研究全体の評価 指導・助言（地域連携）
山森 一輝	千葉県教育庁 学習指導課 指導主事	研究活動への指導助言（教育）

(4) 千葉県教育委員会における支援体制

千葉県教育庁教育振興部学習指導課は、学識経験者等から組織される運営協議会に学習指導課長とともに参加し、一宮商業高等学校と連携しながら実践研究を進めていく。具体的には学期に1回学校訪問を実施し、推進状況について実地調査を行い、積極的な意見交換をしながら到達点、改善点を協議していく。

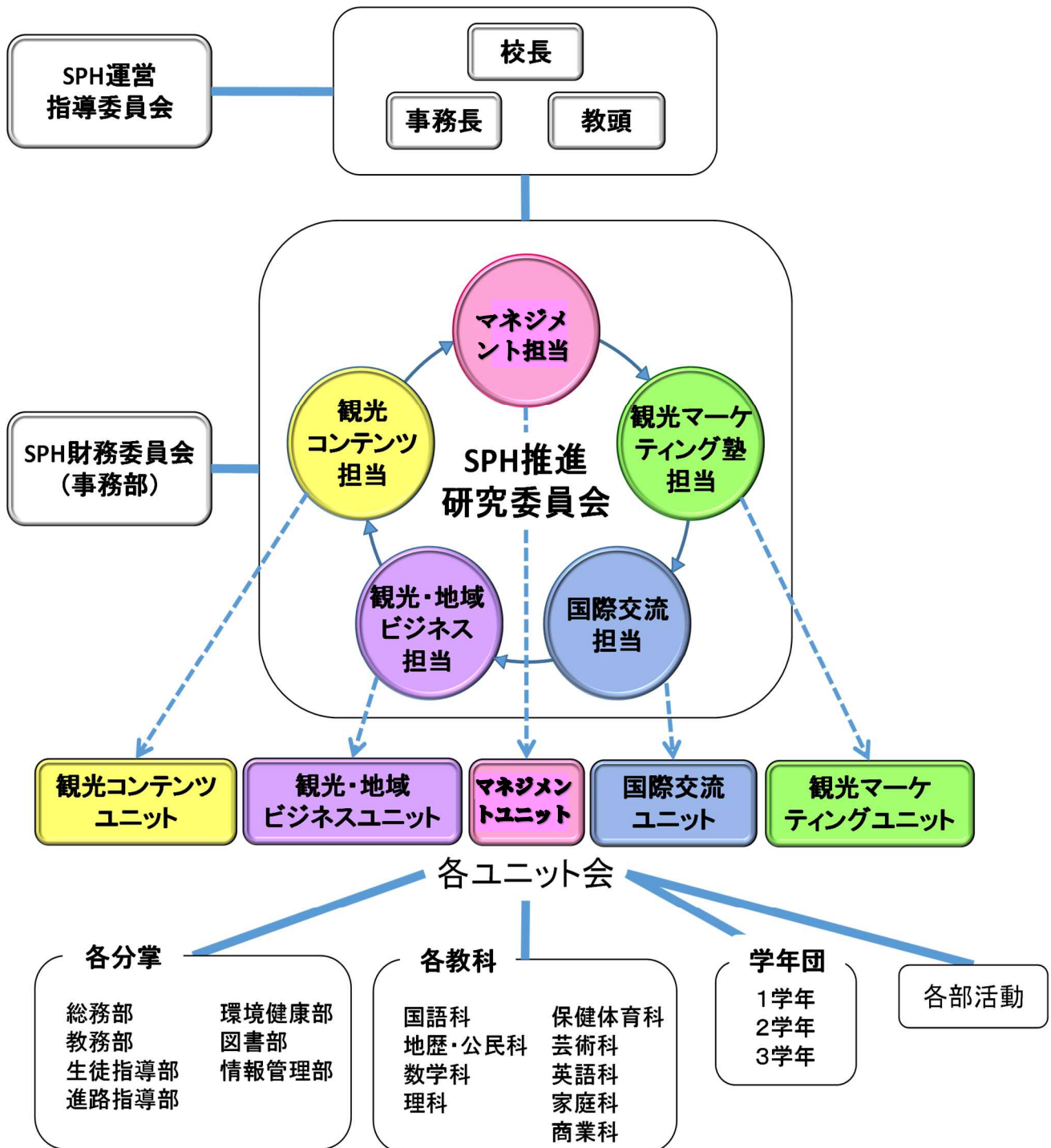
また、千葉県高等学校教育研究会商業部会における研修会で、研究の実践、進捗状況報告をしていく場を設定する。その中で、千葉県の商業教員への周知を図り、様々な意見を求める中で今後の実践研究への支援もしていく。

(5) 地域との連携

高校生版「DMO」の研究のためには、教員・生徒・地域が概念を共有し、活動を進めていくことが不可欠である。そのために、まずは一宮町で地域観光ビジネスを運営し、DMOの活動を始めている企業との連携を図る。また、一宮町役場、町観光協会、町商工会、地元NPO法人との協力・支援体制を築き、地域の特徴や課題についての情報提供や地域ビジネスの学びに関する指導・助言、地域のイベント等における企画・参加協力体制を築く。授業のみならず、ボランティアや部活動単位での連携も図っていく。

(6) 校内における体制図

千葉県立一宮商業高等学校 SPH校内体制図



3. 研究内容別実施時期

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域の課題発見力・分析力・表現力の育成 (ビジネス基礎)						○	○	○	○	○	○	
地域の課題発見力・分析力・表現力の育成 (現代社会)						○	○	○				
英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度と能力の育成		○		○	○	○	○	○		○		
地域観光マーケティング・マネジメント力の育成 (地域観光Ⅰ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
IT の力で地域を活性化させる発想力と主体性の育成						○	○	○				
観光ビジネスに必要な企画力・想像力の育成				○	○	○	○					
次年度実施する教育プログラムの開発				○		○	○	○	○	○		

4. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
特になし				

5. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を伏すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

- () 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。
(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

6. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 無

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

千葉県立一宮商業高等学校

千葉県長生郡一宮町一宮3287

TEL 0475-42-4520 FAX 0475-42-7418